



●株式会社 やさしい手甲府

代表取締役 根津 宏次氏

業界の現況について

世界的な経済不況により、地域の中小企業は市場縮小による売上減、雇用・金融問題など差し迫った課題に直面しています。介護サービス業界は、他業種に比べると経済状況等に左右されにくい業種と考えておりますが、影響は少なからず受けております。

特に今回の不況では、派遣切りや雇用などの問題により、介護業界への求職者が増加しております。また、介護報酬改正は3年に1度行われますが、今年がその年に当り4月より改正され全体で3%のアップとなりました。増額の考え方としては介護従事者の離職率が高く、人材確保を目的とした処遇改善を理由としたこともあり、今回の不況と合わせ求職者が増加したものと考えられます。本来であれば恒常的に人手不足に悩んでいた業界としては歓迎すべき事項ですが、他にないからやむを得ず介護に、という考え方では長く続きません。未経験者でも介護に興味を示し、高齢者を支えたい、人が好きといった根本的な気持ちがあれば決断していいサービスはできません。わが国の高齢人口は、いわゆる「団塊の世代」が65歳以上となる平成24年には3000万人を超え、平成54年にはピークを迎えます。当然介護者が増えることは予想されますので、必要となる福祉人材の質・量の両面において今から準備しなくてはなりません。国としても介護職員が定着するための施策や経済連携協定における外国人の受け入れなども始めております。2000年に施行させた介護保険制度も9年が経過しましたが、これからさらに複雑化していくことが予想されますので、情報を適切・適正に理解し、何が当社にとって有益なのかを判断していく必要があります。

今後、当業界に必要なこと

当業界に必要なことは、将来的に大きな課題でもある福祉人材の確保があげられます。

そのためには未経験者でも安心して働くことができるよう研修の充実など受け入れ態勢の準備と同時に、今現在就労している従事者の処遇を改善する必要があります。またスキルアップする仕組み、女性が働きやすい職場作りなども重要な要素と考えます。何より重要なことは、介護を受けている方ご家族の方に安心してサービスを受けていただくことにあります。そのためには専門的な知識・技術の習得は必要です。介護職員にとっても研修の充実には不安がなく働くことができ、それがサービス向上にも繋がります。安心・安全・信頼を得ることになります。介護される側、介護する側が安心できる仕組み作りが必要と考えられています。